

### 全体の要旨

本書の研究目的は、歴史地理学のアプローチを重視し、時間と空間からカナダ日本人水産移民史を明らかにすることである。研究対象期間は、1800年代末期から太平洋戦争勃発までの約50年とする。空間スケールについては、出身地と移住地について相互に考え、集落、さらに家族や個人レベルでも検討する。そして、陸上の居住空間と海上の漁場空間とを相互補完的に考察する。つまり、日本での出身地を基盤とする社会・経済的な分業システムや、他民族とのかかわりにおける居住空間の特徴的な利用について論じる。

具体的には、サケ缶詰産業における日本人世業者の役割について他民族との分業体制を明らかにする。日本人漁業者がバンクーバー島西岸への移住や、日本人造船業者の活動について研究する。さらに、日本人漁業者の独占的な産業となった塩ニシン製造業や、鯨油を採取する捕鯨業に関わった日本人漁業者も検討する。

サケ缶詰産業と捕鯨業では、ファースト・ネーション、イギリス・ノルウェー系の白人、中国人などと日本人との棲み分けがなされていた。ただしそれは、必ずしも全てが排斥によるものではなかった。それは、産業の発展にともなう合理的な空間配置であった。やがて、カナダ資本から脱した日本人は塩ニシン製造業へも展開した。さらに、バンクーバー島西岸の漁村開拓も開拓した。日本人集住地では地縁・血縁関係から棲み分けが生じていた。

このように時間と空間をとらえる歴史地理学からのアプローチから、新たな日本人水産移民史が明らかになった。この視点は、アジア人の移動にともなうカナダ開拓史の再検討にも通じるのである。

### 本書の目的

本書では、先行研究で取りあげられてきた多くのサケ缶詰産業だけでなく、捕鯨業や塩ニシン製造業、さらには造船業も包含し、漁業移民ではなく「水産移民」としてカナダ日本人移民史を考察する。この研究の枠組みをふまえた研究の目的とその独自性は、次のようになる。

- ①カナダ日本人移民史の特徴として、自由移民としてサケ缶詰産業を中心とする漁業に携わった日本人について検討する。ただし、漁業をめぐる生業と関連する他産業も含めた彼らを、「水産移民」という枠組みでとらえる。また、鉄道保線工をはじめとする契約移民から水産業への転向についても看過しない。

- ②歴史地理学からのアプローチを重視し、時間と空間のスケールに留意しながら、テーマに応じて「水産移民」をとらえる。時間、いわゆる研究対象期間とするタイムスパンについては、日本人移民が渡加した 1800 年代末期から太平洋戦争勃発までの約 50 年を対象とし、世界レベルでの社会・経済的背景や、さまざまな技術革新による変化を考察する。空間スケールについては、出身地（送出地）と移住地（受容地）とを、相互に考えねばならない。前者では先行研究にありがちな都道府県レベルではなく、集落単位で考察することに努める。さらに、イエやヒトのスケールでも検討し、単なるパイオニアの賞賛では留まらない検討を心がける。
- ③漁業をめぐる地理学の発展性をふまえ、陸上である漁村と海上の漁場とを相互補完的に考察する。前者では、居住空間以外の漁業補助空間についても検討する。その場合、他民族との国際的な分業システムによる居住地の住み分けについて大縮尺図から検討する。後者では時間スケールとも関わった年周性や日周性から、漁場利用の生態を分析する。
- ④このような①～③の分析を行うにあたり、さまざまな資料の活用を試みる。文献史学が活用してきた外務省の行政資料に留まらず、漁業に関する日本の農商務省やカナダ各地の文書館、ならびに個人家所蔵の資料、とりわけ古写真を積極的に活用する。

## 章構成

### 第 1 章 はじめに—カナダ日本人漁業移民史の再考—

- 1 海を渡った日本人 2 漁業移民史から水産移民史へ 3 本書の構成

### 第 2 章 研究の目的とその歴史地理学的アプローチ

#### I. カナダ日本人移民史研究の課題と研究目的

- 1 北米におけるカナダ日本人移民史研究 2 日本における日本人移民史研究の課題  
3 漁場利用と漁業補完空間 4 カナダ日本人水産移民史の研究目的

#### II. 資料の活用と研究方法

- 1 日本の出身地を知る 2 カナダへの移住を知る 3 個人データを知る  
4 オーラルデータの活用 5 おわりに

### 第 3 章 カナダ日本人移民史の概略

- 1 はじめに 2 初期の日本人移民 3 出身地との関係  
4 カナダ・センサスからの考察 5 戦時中のカナダ日本人移民 6 おわりに

### 第 4 章 サケ缶詰産業をめぐる日本人移民

#### I. サケ缶詰産業をめぐる日本人移民

- 1 はじめに 2 BC 州におけるキャナリーの展開  
3 BC 州サケ缶詰工場図集成にみるサケ缶詰産業と日本人漁業者  
4 バンクーバー・キャナリーで従事する日本人 5 2 つのキャナリーの比較検討

## II. フレーザー川河口の漁場利用

- 1 はじめに
- 2 サケ刺網漁業に就くこと — 『無名の勇士』 から—
- 3 サケを獲ること — 『山宣日記』 と報告書から—
- 4 サケ缶詰を作ること — 視察報告書から—
- 5 おわりに

## III. 漁業への転業とサケ集配業

- 1 はじめに
- 2 ブランスウィック・キャナリーの諸相
- 3 ブランスウィック・キャナリーの鹿児島県出身者
- 4 サケ集配をめぐる歴史的資料
- 5 おわりに

## 第5章 捕鯨業をめぐる日本人移民

### I. 捕鯨業にみる民族的分業システム

- 1 はじめに
- 2 捕鯨船への乗組員と日本人
- 3 ネーデン・ハーバー捕鯨基地の施設
- 4 ローズ・ハーバー捕鯨基地の日本人主任
- 5 ローズ・ハーバー捕鯨基地の運営を支えた日本人
- 6 おわりに

### II. 捕鯨業からの転業

- 1 はじめに
- 2 小坂夫妻の渡航
- 3 ローズ・ハーバー捕鯨基地の日本人主任
- 4 バンクーバー島での塩サケ製造
- 5 バンクーバーでの小坂兄弟
- 6 おわりに

## 第6章 塩ニシン製造業をめぐる日本人移民

### I. 塩ニシン製造業と日本人

- 1 はじめに
- 2 塩ニシン製造業の展開
- 3 資料にみる塩ニシン製造業
- 4 塩ニシン製造業で活躍した日本人
- 5 おわりに

### II. ニシン巾着網漁業と漁場利用

- 1 はじめに
- 2 ニシンの漁場とその漁期
- 3 巾着網漁業の設備
- 4 ニシン巾着網漁業の漁場と漁法
- 5 おわりに

### III. 太平洋をめぐるニシン

- 1 はじめに
- 2 ニシンの加工と輸出
- 3 ニシンの輸出先
- 4 日本から植民地へ
- 5 おわりに

## 第7章 バンクーバー島西岸における漁村の開拓

### I. ユクルーレットへの移住と日系漁業組合の設立

- 1 はじめに
- 2 バンクーバー島西岸への日本人漁業者の移住
- 3 日本人による漁業組合の設立
- 4 居住者構成の変化
- 5 漁業ライセンスの移動
- 6 おわりに

### II. トフィーノとバムフィールドへの移住

- 1 はじめに
- 2 トフィーノへの移住
- 3 クレヨコット・トフィーノでの生活
- 4 職業構成とその変化
- 5 バムフィールドの日本人漁業者
- 6 おわりに

### III. ユクルーレットの女性と子供たち

- 1 はじめに
- 2 開拓のようす
- 3 ユクルーレットの女性たち

- 4 ユクルーレットの教養と娯楽 5 排日と親日のはざままで 6 おわりに
- 第8章 漁業を支える日本人
- I. スティーブストンにおける日本人造船業
- 1 はじめに 2 スティーブストン周辺の日本人造船業
- 3 スキーナ川河口における日本造船業 4 スティーブストンにおける日本造船業
- 5 日本人の漁船名の移りかわり 6 おわりに
- II. 日本人への日用品の販売
- 1 はじめに 2 カナダへの渡航から雑貨店経営まで
- 3 火災保険図と BC 州住所氏名録 4 丸野家の発展 5 おわりに
- 第9章 水産移民の分業システムとネットワーク
- 1 国際的な分業システムと居住空間の分化
- 2 水産業への転業・水産業からの転業—おわりに

## 各章の要約

### 第1章 はじめに

カナダ日本人移民史に関する研究では、ブリティッシュ・コロンビア州（以下、BC州）のフレーザー川河口におけるスティーブストンでのパイオニアへの賞賛が多かった。また、彼らのマイノリティとしての異文化性が排斥史観的に説明されてきた。そこで著者は、サケ缶詰産業における日本人世業者の役割について他民族との分業体制を明らかにする。日本人漁業者がバンクーバー島西岸への移住や、日本人造船業者の活動について研究する。さらに、日本人漁業者の独占的な産業となった塩ニシン製造業や、鯨油を採取する捕鯨業に関わった日本人漁業者も検討する。

### 第2章 研究の目的とその歴史地理学的アプローチ

#### I. カナダ日本人移民史研究の課題と研究目的

北米での研究成果をみると、カナダ水産業の中心であったサケ缶詰産業との関係で日本人漁業者が記述されてきた。他の水産業で活躍した日本人の考察は少ない。近年の日系カナダ人によるファミリーヒストリーは、カナダ日本人水産史研究を大きく前進させた。

これまでの日本人移民史研究では、彼らの移住後、農地の拡大による定着、都市部への移動と現地社会での同化に焦点があてられてきた。しかし、農業や都市の諸産業に従事した日本人移民とは異なる特徴的な水産移民の分析が必要である。

本書の研究目的は、歴史地理学のアプローチを重視し、時間と空間からカナダ日本人水産移民史を明らかにすることである。研究対象期間は、1800年代末期から太平洋戦争勃発までの約50年とする。空間スケールについては、出身地と移住地について相互に考える。集落、さらに家族や個人レベルでも検討する。そして、陸上の居住空間と海上の漁場

空間とを相互補完的に考察する。つまり、日本での出身地を基盤とする社会・経済的な分業システムや、他民族とのかかわりにおける居住空間の特徴的な利用について考察する。

## II. 資料の活用と研究方法

分析にあたっては、日本人住所氏名録や、外務省外交史料館、農商務省や大日本水産会による報告書を活用する。とくに、大縮尺図とその解説を記した *Plans of Salmon Canneries in British Columbia together with Inspection Reports on Each, 1923* (BC 州サケ缶詰工場図集成) は、居住空間の考察に有益である。その他、“BC Directory (BC 州住所氏名録)” “Debits (帳簿)”、“Check (小切手)” など、各地の文書館の所蔵資料を活用した。さらに、古写真や日記を併用し、日本人のライフヒストリーを描いた。そのときの聞き取り調査は、重要である

### 第3章 カナダ日本人移民史の概略

最初にカナダへ移住した日本人は、長崎県口之津出身の永野萬蔵である。1877年にイギリス船の水夫として渡加した彼は、BC 州のニュー・ウエストミンスターでサケ漁業に従事し、やがてビクトリアで美術商、雑貨業や宿泊業を営んだ。1888年には、和歌山県三尾(みお)出身の工野儀兵衛がフレーザー川河口のスティープストーンに渡り、彼の呼び寄せにより和歌山県の沿岸部から自由移民として多くの人びとが渡加した。彼らの多くはサケ缶詰産業を中心とする水産業に従事した。その他、滋賀県出身者はおもに製材業や商業、鹿児島県や熊本県などの九州出身者は、移民契約会社の鉄道保線工や炭鉱夫として渡加した。

### 第4章 サケ缶詰産業をめぐる日本人移民

#### I. サケ缶詰産業をめぐる日本人移民

1920年代のカナダには、約80ヶ所のサケ缶詰工場(キャナリー)が操業されていた。経営者であるイギリス系のもと、ファースト・ネーション(インディアン)だけでなく、多くの中国人が缶詰製造、日本人移民はその材料となるサケ類の漁獲に従事していた。日本人は全体の60%のキャナリーで春～秋季に雇用されていた。そこでは、ファースト・ネーションの居住施設は Indian Hut (小屋)、中国人は Chinese Bunk (寝台舎)、そして、日本人は、Japanese Cabin (簡易住居)が提供された。その他、Net House (網小屋)や Net Rack (網干場)のほか、日本人の居住区には、漁船や運搬船の新造・修理を担う Boat Builder (造船所)が設けられることもあった。

#### II. フレーザー川河口の漁場利用

1920年代以前、フレーザー川流域のサケ刺網漁業(gill net fishery)では、漁船は無動力であり、漁場まで動力船に牽引されていた。上潮時に遡上するサケを対象として漁業者は出漁し、無動力船ゆえに潮汐と出漁のタイミングを計っていた。彼らは川岸に近い浅い場所

に錨を下ろし、河川の流れによって上流から下流へと移動を繰り返した。その漁網の可動範囲が個々の漁場になったのである。8月の漁繁期には、午前3時頃から深夜12時頃まで刺網漁業が行われていた。

### Ⅲ. 漁業への転業とサケ集配業

東京移民合資会社による契約移民の多くは、鉄道保線工として渡加した。契約期間を終えると彼らは、先に和歌山県出身者が自由移民として活躍していたサケ缶詰産業に転じることが多かった。鹿児島県出身者をはじめとする彼らの居住地は、スティーブストンではなく、カナ水路やイーバンなど遠方のキャナリーで雇用された。先住者である高崎家は英語を理解できたので、キャナリーで集配船を任された。

## 第5章 捕鯨業をめぐる日本人移民

### I. 捕鯨業にみる民族的分業システム

19世紀末から20世紀初頭にかけて、カナダ北西岸の各地にいくつかの捕鯨基地が開設された。捕鯨船船長と機関長はイギリス人、砲手と水夫はノルウェー人が務めていた。捕鯨基地では約80名が働き、おもにイギリス人は技師長、書記、採油・肥料主任などの事務を任っていた。それに対し、日本人は同胞者を取りまとめる主任のもとで、皮・肉切りなどの雑役、中国人は鯨油の採集に就いていた。捕鯨基地の施設配置をみると、解体場を中心に事務所の他、日本人と中国人とに分かれた住居が建ち並んでいた。この分業システムと居住空間の配置は、サケ缶詰産業と類似する。

### Ⅱ. 捕鯨業からの転業

1909～14年、ハイダ・グアイ（クイーン・シャーロット諸島）のローズ・ハーバー捕鯨基地における日本人主任は、大分県臼杵出身の小坂茂一であった。第一次大戦の終戦によって、捕鯨基地が閉鎖されると、小坂家はそこを離れ、バンクーバー東部のフレーザー谷へ移った。ここでは、おもに日本人はイチゴ栽培に携わっていた。先に大分県出身者がおり、小坂家はその地縁的關係によってこの地へ移った。1926年に小坂家は再び転居し、バンクーバー島のリザドン湾へ移った。ここで小坂家は、塩サケ製造業を営んだ。

## 第6章 塩ニシン製造業をめぐる日本人移民

### I. 塩ニシン製造業と日本人

1900年当初、バンクーバー島東岸に約40カ所の塩ニシン工場が建設された。大規模な漁具・漁業施設が必要なこの産業では、都市出身者が流通・貿易をし、和歌山県の漁村出身者が漁撈を担っていた。ナナイモ湾岸では、塩ニシン製造業は秋から春にかけての季節的な労働であり、日本人の住宅は出稼ぎ小屋として利用されていた。1910年9月に発生した火災後、連立していた塩ニシン工場はナナイモ沖のニューキャッスル島に移転した。

## II. ニシン巾着網 (seine fishing) 漁業と漁場利用

ニシン漁業に関わる漁船は、ニシン群を漁獲する 2 隻の網船のほか、曳船やスカウと呼ばれる無動力の運搬船から構成されていた。曳船には船長と機関長のほか、2 人の船頭が乗船した。そして、2 隻の網船には 25 人ずつが分乗した。和歌山県出身の船頭は、海上に浮上してくるニシンを空中から狙うカモメや、魚群が映る海水の色、ニシンが発する気泡や水音に注目してニシン群を発見した。魚群を取り囲んだ後、スカウに移った漁業者はたも網を利用してニシンを掬い入れた。この作業には、日本人だけではなく、ユーゴスラビア系移民も関わっていた。

## III. 太平洋をめぐるニシン

第二次世界大戦以前のカナダ水産界では、魚肥としての加工や魚卵の採取が禁じられていた。そのため、ニシンは塩漬けされて日本へ輸出されるようになった。第一次大戦で荒廃した北大西洋沿岸に代わって、カナダ西岸において日本人の独占的な産業となった同業は厳しい排斥をうけた。そのなかで、塩ニシンは日本を經由して香港や上海へ輸出されていた。それに対し、ピクルスはヨーロッパ、燻製はカリブ海へ輸出されていた。

## 第 7 章 バンクーバー島西岸における漁村の開拓

### I. ユクルーレットへの移住と日系漁業組合の設立

1913 年、カナダ太平洋鉄道の工事によってサーモンの遡上量が異常をきたした。また 1918 年に大きな火災が起ったスティーブストンでは、漁船の動力化が始まっていた。そのようななか、日本人漁業者がバンクーバー島西岸の沖合に大きな漁場を発見した。それによって、スティーブストンからユクルーレットを中心とするバンクーバー島西岸に移住する者が続出した。和歌山県出身の前川勘蔵は、ユクルーレットに 1924 年に日系漁業組合を組織した。そこでは、清水・浜出・箱田湾や砂浜湾、ならびにフレーザー湾のように日本人は出身地毎に居住地が形成された。

### II. トフィーノとバムフィールドへの移住

バンクーバー島西岸のトフィーノやバムフィールドにおいて、日本人漁業者は極めて限定された地区に居住していた。後者では日本人は、より奥深くに湾入しているグラブラー入江に集住していた。ここは貝・海草類の採集に適しており、何より北西風を防ぐことができ、漁船の繫留に都合がよかった。日本人漁業者は、決して差別的な境遇から居住地が限定されたのではなく、漁業者として最適な場所を選択したにすぎない。

### III. ユクルーレットの女性と子供たち

ユクルーレットでは、日本語学校の設立やカナダ建国記念日の行事開催など教育や娯楽

もあった。また、婦人たちは夫が出漁した後、趣味を楽しんだ。それを支える日本人ネットワークが、形成されていた。出身地による分業システムによって日系漁業組合の船長、機関長や経理、そして日本語学校の教師は和歌山県人以外の人々であった。また、親日家の白人がいたことも重要である。

## 第8章 漁業を支える日本人

### I. スティーブストンにおける日本人造船業

1910年代以降、カナダ西岸の日系漁民に漁船の動力化に関する特需が生じた。それ以前の無動力船時代では、家大工経験者が応じてきた漁船の修理が、動力船になると対処できなかった。そのとき、伝統的な造船業地域で生誕し、高次の技術を修得していた日系船大工が活躍したのである。その中心となったのは、多数の日系漁民を輩出した和歌山県のなかでも、日置や新宮などの南部の人々であった。

### II. 日本人への日用品の販売

大阪府南部出身の丸野吉太郎は、地籍資料によれば所有地を売却することによって渡航費用を捻出したようである。渡加後、彼はフェアビュー地区で精米業や宿泊業を営んだ。やがて、最大の日本人集住区であるパウエル地区へ進出した。さらに、菓子製造業から魚屋へと業種も変わり、マネージャーは吉太郎から、息子の栄三郎へ移り、その娘も事務・経理を担った。その過程は、“BC Directory”を時系列的に精査すると判明する。栄三郎の経営するユニオン魚屋は、バンクーバー島の各地へも定期的に訪問販売をしていた。

## 第9章 「水産移民」の居住空間とネットワーク

サケ缶詰産業と捕鯨業では、ファースト・ネーション、イギリス・ノルウェー系の白人、中国人などと日本人の棲み分けがなされていた。ただしそれは、必ずしも全てが排斥によるものではなかった。それは、産業の発展にともなう合理的な空間配置であった。やがて、カナダ資本から脱した日本人は塩ニシン製造業へも展開した。さらに、バンクーバー島西岸の漁村開拓も開拓した。日本人集住地では地縁・血縁関係から棲み分けが生じていた。このように時間と空間をとらえる歴史地理学からのアプローチから、新たな日本人水産移民史が明らかになった。この視点は、アジア人の移動にともなうカナダ開拓史の再検討にも通じるのである。

今後の課題として、契約移民として20世紀初頭に渡加した日本人の水産業への転業を考える。さらに、1920年代の漁業ライセンスの削減によって、漁業からガーディナーへの転業も検討しなければならない。戦後における他産業への展開も含めて、カナダにおける日本人水産移民史を総合的に理解することが必要である。

## おもな引用文献・参考文献

### 第1章



- 岡部牧夫（2002）『海を渡った日本人』、日本史リブレット 56、山川出版。
- 日本移民学会編（2018）『日本人と海外移住—移民の歴史・現状・展望—』、明石書店。
- 米山 裕・河原典史編（2015）『日本人の国際移動と太平洋世界—日系移民の近現代史—』、文理閣。
- サンドラ・コバヤシ（1995）『正された歴史—日系カナダ人への謝罪と補償』、つむぎ出版。
- Endo, G. J. & Kawamoto, R. L. & Greenaway, F. (2017) *Departures :Chronicling the Expulsion of the Japanese Canadians from the West Coast, 1942-1949*, Japanese Canadian National Museum.

## 第 2 章

- 飯田耕二郎①（2003）『ハワイ日系人の歴史地理』、ナカニシヤ出版。②（2013）『ホノルル日系人の歴史地理』、ナカニシヤ出版。
- 飯野正子（1997）『日系カナダ人の歴史』、東京大学出版会。
- 石川友紀①（1997）『日本移民の地理学的研究—沖縄・広島・山口—』、榕樹書林。  
②（2009）「日本における出移民研究史概観— 1990 年代以降—」、JICA 横浜海外移住資料館研究紀要 3、1-14。
- 今野裕子（2015）「和歌山県太地とカリフォルニア州ターミナル島をつなぐ同郷ネットワーク」、米山 裕・河原典史編『日本人の国際移動と太平洋世界—日系移民の近現代史—』、文理閣、163-189。
- 岩崎健吉（1936・1937・1938）「紀伊半島南海岸に於ける海外出稼移民の研究（第 1 報）・（第 2 報）・（第 3 報）」、地理学評論 12（7）・13（3）・14（4）、589-611・183-200・302-320。
- 大島襄二（1983）『トレス海峡の人々—その地理学的・民族学的研究—』、古今書院。
- 小川真和子（2017）『海の民のハワイ—ハワイの水産業を開拓した日本人の社会史—』、人文書院。
- カナダ移住百年誌編集委員会編（1989）『カナダ移住百年誌』、美浜町カナダ移住 100 周年記念事業実行委員会。
- 河原典史①（1997）「泉佐野市をとりまく漁船の流通形態—『漁船原簿』の地理学的分析の試み—」、泉佐野市史研究 3、66-79。②（1999）「漁村空間の構成に関する地理学的研究に関する一試論—地籍図と家屋台帳の利用をめぐる—」、桑原公德編著『歴史地理学と地籍図』、ナカニシヤ出版、159-174。③（2001）「漁業をめぐる空間利用—漁民のまなざしから—」、吉越昭久編『人間活動と環境変化』、古今書院、217-231。
- 久原脩司（1983）「アラフラ海における採貝出稼初期移民の研究—和歌山県人を中心として—」、大島讓二編『トレス海峡の人々—その地理学的・民族学的研究—』、古今書

- 院、532-546。
- 佐々木敏二①(1974)『山本宣治』、汐文社。②佐々木敏二(1999)『日本人カナダ移民史』、不二出版。
- 佐々木敏二・小田切明德編(1977)『山本宣治全集：第6巻一日記・書簡集一』、汐文社。
- 新保 満①(1986)『カナダ日本人移民物語』、築地書館。②(1996)『カナダ移民排斥史ー日本の漁業移民ー(新装版)』、未来社。③(1996)『石をもて追われるごとく』、御茶の水書房。
- 新保 満・田村紀雄・白水繁彦(1991)『カナダの日本語新聞ー民族移動の社会史一』、PMC 出版、24・80。
- 末永國紀(2010)『日系カナダ移民の社会史ー太平洋を渡った近江商人の末裔たちー』、ミネルヴァ書房。
- 杉浦 直(2011)『エスニック地理学』、学術出版会。
- 大陸日報社編(1941)『在加奈陀邦人々名録』、佐々木敏二編(2000)『カナダ移民史資料 第6巻』、不二出版。
- 大日本水産会(1982)『大日本水産会百年史』、大日本水産会。
- 谷岡武雄(1964)「湖東移民村の地理的環境」、立命館大学人文科学研究所紀要 14、1-24。
- 田和正孝(1997)『漁場利用の生態ー人文地理学的考察ー』、九州大学出版会。
- 鶴見和子(1962)『ステブストン物語ー世界のなかの日本人ー』、中央公論社。
- 中山訊四郎(1922)『加奈陀同胞発展大鑑 附録』、佐々木敏二編(1995)『カナダ移民史資料 第2・3巻』、不二出版。
- 日本移民研究会編①(2007)『日本の移民研究 動向と文献目録 I』、明石書店。②(2007)『日本の移民研究 動向と文献目録 II』、明石書店
- 農商務省水産局(1918)『海外ニ於ケル本邦人ノ漁業状況』、農商務省水産局。
- 農商務省水産講習会(1919)『加奈陀太平洋岸鯨・大鯰漁業調査報告』、農商務省水産講習会。
- 花木宏直①(2010)「大正期～昭和初期の芸予諸島・大三島におけるマニラ移民と国内出稼ぎの特性ー旧岡山村口総地区を事例として」、人文地理 62(5)、401-425。②(2012)「明治・大正期の神奈川県足柄下郡における渡航者の送出経緯と渡航後の行動」、歴史地理学 54(4)、4-23。③(2013)「明治中～後期の沖縄県における移民会社業務代理人の経歴と属性」、沖縄地理 13、1-16。
- 福武 直(1953)『海外移民が母村に及ぼした影響ー和歌山県日高郡三尾村実態調査ー』、毎日新聞社人口問題調査会。
- 前田竜孝(2019)「日本の漁業地理学における生態学的方法の系譜とその展開」、地理科学、74-1、23-39。

- 松本博之① (2003) 「オーストラリア・トレス海峡諸島における先住民の Seascape」、奈良女子大学文学部研究年報 47、99-118。② (2013) 「オーストラリア熱帯海域における真珠貝漁業の Seascape –トレス海峡・木曜島を中心に–」、地理学報 37、59-76。
- 美浜町史編集委員会編 (1984) 『美浜町史』、美浜町。
- 山田千香子 (2000) 『カナダ日系社会の文化変容－「海を渡った日本の村」三世代の変遷－』、御茶の水書房。
- 矢ヶ崎典隆 (1993) 『移民農業－カリフォルニアの日本人移民社会－』、古今書院。
- 藪内芳彦 (1958) 『漁村の生態－人文地理学的立場－』、古今書院。
- 吉田龍一編 (1926) 『加奈陀在留邦人々名録』、佐々木敏二編 (2000) 『カナダ移民史資料第 6 巻』、不二出版。
- 和歌山県 (1957) 『和歌山県移民史』、和歌山県。
- Adachi, K. (1976) *The Enemy That Never Was: A History of the Japanese Canadians*, McClelland and Stewart limited.
- Armitage, D. (1997) *Around the Sound: A History of Howe Sound-Whistler*, Harbour Publishing.
- Blyth, G.Y. (1991) *Salmon Canneries: British Columbia north coast*, Oolichan books.
- Bowman, P. (1982) *Klondike of the Skeena!*, Sunrise Printing.
- Campbell, K.M. (2004) *Cannery Village: Company Town*, Trafford Publishing.
- Dubreuil, L. & Woods, C.A. (2002) *Catalogue of Canadian fire insurance plans 1875-1975*, Association of Canadian Map Libraries and Archives.
- Fiset, L. & Nomura, G.M. (2005) *Nikkei in the Pacific Northwest: Japanese Americans & Japanese Canadians In The Twentieth Century*, University of Washington Press.
- Fukawa, M.① (2007) *Nikkei Fishermen on the BC Coast: Their Biographies and Photographs*, Harbour Publishing. ② (2009) *Spirit of the Nikkei Fleet: BC's Japanese Canadian Fishermen*, Harbour Publishing.
- Goddard, J. ① (1997) *A Window on Whaling in British Columbia*, Premier Printing Ltd. ② (2001) “The Japanese Experience: In Western Canadian Whaling”, *Journal of Pacific Maritime History* 37-3 & 4, 38-47.
- Hagelund, W.A. (1987) *Whalers No More: A History of Whalers on the West Coast, Madeira Park, B.C.*, Harbour Publishing.
- Hayashi, K., Kanno, F.F., Tanaka, H., Tanaka, J., Tides, C. (2017) *Vanishing Voices of Nikkei Fishermen and Their Families*, the Nikkei National Museum & Cultural Center.
- Hyde, R. (2001) *The Sockeye Special: The Story of the Steveston Tram and Early*

- Lulu Island*, Friesens Corporation.
- Kitagawa, M. & Miki, R. (1985) *This Is My Own: Letters to Wes and Other Writings on Japanese Canadians, 1941-1948*, Talonbooks Ltd.
- Kiyooka, R. & Marlatt, D. (1997) *Mothertalk: Life Stories of Mary Kiyoshi Kiyooka*, New West Press.
- Loyd, W.R. (1995) *On the Northwest: commercial whaling in the Pacific*, UBC Press.
- Marlatt, D (1975) *Steveston Recollected : A Japanese-Canadian History*, Daphne Marlatt.
- McNulty, B. (2011) *Steveston: A Community History*, Bill McNulty.
- Meggs, G. (1995) *Salmon: The decline of the British Columbia fisheries*, Douglas & McIntyre Ltd.
- Nakayama, G.G. (1984) *Issei: Stories of Japanese Canadian Pioneers*, NC Press.
- Oiwa, K. (1991) *Stone Voices: Wartime Writings of Japanese Canadian Issei*, Vehicule Press.
- Oswald, D.L. (1997) *Fire Insurance Maps: Their history and Applications*, Lacey Press.
- Peterson, J. (1999) *Journeys: Down the Alberni canal to Barkley Sound*, Oolichan Books.
- Philips, T. (2003) *Harvesting the Fraser: A History of Early Delta*, Delta Museums and Archives.
- Ross, L.J. (1979) *Richmond: Child of the Fraser*, the Township of Richmond.
- Skogan, J. (1983) *Skeena: a river remembered*, British Columbia Packers Ltd.
- Stacey, D. & Stacey, S. (1994) *Salmonopolis: The Steveston Story*, Harbour Publishing.
- Stevens, H. & Knight, R. (1992) *Homer Stevens: A Life in Fishing*, Harbour Publishing.
- Takata, T.R. (1983) *Nikkei Legacy The Story of Japanese Canadians from Settlement to Today*, New Canada Press.
- Woodward, F.M. (1979) *Fire Insurance Plans and British Columbia Urban History: A Union List*, BC Studies 42, pp.13-26.
- Yesaki, M. : ① (1998) *Steveston Cannery Row: An Illustrated History*, Peninsula Pub. Co. ② (2002) *A Historical Guide to the Steveston Waterfront*, Peninsula Pub. Co. ③ Yesaki, M (2003) *Sutebusuton : a Japanese village on the British Columbia coast*, Peninsula Pub. Co. ④ (2005) *Watari-dori: (Birds of Passage)*, Peninsula Pub. Co.
- Young, G. & Lutz S, J. ① (1988) *The Researcher's Guide to British Columbia*

*Nineteenth Century Directories : A Bibliography & Index*. Public History Group, University of Victoria.② (1992) *The Researcher's Guide to British Columbia Directories 1901-1940 : A Bibliography & Index*, Public History Group, University of Victoria.

### 第3章

- 飯野正子 (1997) 『日系カナダ人の歴史』、東京大学出版会。
- 和泉真澄 (2002) 『日系カナダ人の移動と運動—知られざる日本人の越境生活史—』、小鳥遊出版。
- 岩崎健吉 (1936・1937・1938) 「紀伊半島南海岸に於ける海外出稼移民の研究 (第1報)・(第2報)・(第3報)」、地理学評論 12 (7)・13 (3)・14 (4)、589-611・183-200・302-320。
- 佐々木敏二 (1999) 『日本人カナダ移民史』、不二出版。
- 新保 満① (1986) 『カナダ日本人移民物語』、築地書館。② (1996) 『石をもて追われるごとく—日系カナダ人社会史—』、御茶の水書房。③ (1996) 『カナダ移民排斥史—日本の漁業移民— (新装版)』、未来社。
- 末永國紀 (2010) 『日系カナダ移民の社会史—太平洋を渡った近江商人の末裔たち』、ミネルヴァ書房。
- 広島県① (1991) 『広島県移住史資料編』、広島県。② (1993) 『広島県移住史通史編』、広島県。
- ミチコ・ミツヂ・アユカワ著、和泉真澄訳 (2012) 『カナダへ渡った広島移民』、明石書店。
- 山形孝夫 (1996) 『失われた風景—日系カナダ漁業者の記録から』、未来社。
- 和歌山県 (1957) 『和歌山県移民史』、和歌山県。
- 山田千香子 (2000) 『カナダ日系社会の文化変容—「海を渡った日本の村」三世代の変遷—』、御茶の水書房。

### 第4章

- 指宿市役所 (1958) 『指宿市誌』、指宿市。
- 加奈陀加奈陀鹿兒嶋懸人会編 (1913) 『政府公認加奈陀鹿兒嶋懸人会史』
- 川崎澄雄 (1986・1987・1989) 「知覧・穎娃からの海外出稼ぎ者と海外移民 (その一)・(その二)・(その三)」知覧文化 23・24・26、1986・87・89、99-117・51-68・53-72。
- 河原典史編 (2013) 『カナダ日本人漁業移民の見た風景—前川家「古写真」コレクション—』、三人社。
- 佐々木敏二・小田切明德編 (1977) 『山本宣治全集：第6巻—日記・書簡集—』汐文社。

大陸日報社編（1941）『在加奈陀邦人々名録』、佐々木敏二編（1995）『カナダ移民史資料 第6巻』、不二出版。

中山訊四郎（1922）『加奈陀同胞発展大鑑 附録』、佐々木敏二（1995）『カナダ移民史資料第3巻』、不二出版。

宮田彌治郎（1920）「北米太平洋沿岸鮭缶詰業の趨勢（1）～（3）」、9-13・5-9・3-7。

吉田龍一編（1926）『加奈陀在留邦人々名録』、佐々木敏二編（1995）『カナダ移民史資料 第6巻』、不二出版。

## 第5章

阿部松乃進（1908）「加奈陀太平洋沿岸に於ける捕鯨業」、大日本水産会報告、305・306、9-15・8-13。

角田利源太（1969）『努力一筋』、タカオカ印刷（非売品）。

大陸日報社編（1917）『加奈陀同胞発展史 第二』、佐々木敏二編（1995）『カナダ移民史資料 第1巻』、不二出版。

大陸日報社編（1941）『在加奈陀邦人々名録』、佐々木敏二編（1995）『カナダ移民史資料 第6巻』、不二出版。

中山訊四郎（1922）『加奈陀同胞発展大鑑 附録』、240-241、佐々木敏二編（1995）『カナダ移民史資料 第2・3巻』、不二出版、276-277。

吉田龍一編（1926）『加奈陀在留邦人々名録』、佐々木敏二編（1995）『カナダ移民史資料 第6巻』、不二出版。

渡辺洋之（2006）『捕鯨問題の歴史社会学—近代日本における鯨と人間—』、東信堂。

Kiyooka, R. and Marlatt, D. (1997) *Mothertalk: Life Stories of Mary Kiyoshi Kiyooka*, New West Publishers Limited..

Nichol, L. Heise, K. and Vancouver Aquarium (1992) *The Historical Occurrence of Large Whales off the Queen Charlotte Islands*, South Moresby: Gwaii Haanas National Park Reserve.

Nichol, L.M. Gregr, E.J. Flinn, R. Ford, J.K.B. Gurney, R. Michaluk, L. & Peacock, A. (2002) *British Columbia Commercial Whaling Catch Data 1908 to 1967: A detailed Description of the BC. Historical Whaling Database*, Fisheries and Oceans Canada Science Branch, Pacific Biological Station.

Sumida, R. (1935) *Japanese in British Columbia*, University of British Columbia.

## 第6章

岩倉守男（1932）『朝鮮水産業の現況と将来』、民衆時論社。

大陸日報社編（1909）『加奈陀同胞発展史』、佐々木敏二編（1995）『カナダ移民資料第1巻』、不二出版。

- 田口一夫 (2002) 『ニシンが築いた国オランダ—海の技術史を読む—』、成山堂書店。
- 朝鮮総督府殖産局 (1922) 『朝鮮水産便覧—大正 11 年—』。
- 中西 聡 (1998) 『近世・近代日本の市場構造—「松前鮭」肥料取引の研究—』、東京大学出版会。
- 中山訊四郎 (1922) 『加奈陀同胞発展大鑑 附録』、佐々木敏二編 (1995) 『カナダ移民資料第 2 巻』、不二出版。
- 農商務省水産局 (1918) 『海外ニ於ケル本邦人ノ漁業状況』。
- 農商務省水産講習会 (1919) 『加奈陀太平洋岸鯨・大鯿漁業調査報告』。
- Howell, D. L. (2007) (河西英通・河西富美子訳) 『ニシンの近代史—北海道漁業と日本資本主義—』、岩田書院。
- Merilee, B. (1998) *Newcastle Island: A Place of Discovery*, Heritage House.
- Norcross, E.B. (1979) *Nanaimo Retrospective: The First Century*, Nanaimo Historical Society .
- Peterson, J. (2002) Black Diamond City Nanaimo-The Victorian Era, Heritage House, 1-240.
- Takata, T.R. (1983) *Nikkei Legacy The Story of Japanese Canadians from Settlement to Today*, New Canada Press.

## 第 7 章

- カナダ移住百年誌編集委員会編 (1989) 『カナダ移住百年誌』、美浜町カナダ移住 100 周年記念事業実行委員会、111-115。
- 河原典史編 (2013) 『カナダ日本人漁業移民の見た風景—前川家「古写真」コレクション—』、三人社。
- 工藤美代子 (1983) 『黄色い兵士達—第一次世界大戦日系カナダ義勇兵の記録—』、恒文社。
- 小林貞二 (1935) 『須知武士道漁者慈善団体三十五年史』、佐々木敏二・権並恒治 (1995) 『カナダ移民史資料 第 4 巻』、不二出版。
- 佐藤 伝編 (1953) 『加奈陀日本語学校教育会史—1923-42 年—』、加奈陀日本語学校教育 会整理委員会、35-39。
- 和歌山県 (1957) 『和歌山県移民史』、和歌山県、204-207。
- Aukawa, M. with Arnet, E. (2002) *Early Japanese Community in Tofino*, Nikkei Images, 7-4, 7-10.
- Bossin, B. (1981) *Settling Clayoquot*, Sound Heritage Series, 49-72.
- Lee, A. and Switzer, G. (2004) *George Fraser's Rhodo Heaven*, Fraser Day July.
- Madokoro, D. (2006) *Family History Series Yoshio Johnny Madokoro (Part 1)*, Nikkei Images, 11-3, 6-12.

Maekawa, L. (2001) *Mrs. Okada's Kamaboko Factory on Clayoquot Island*, Nikkei Images, 6-4, 2-3.

Takata, T.R. (1983) *Nikkei Legacy The Story of Japanese Canadians from Settlement to Today*, New Canada Press.

## 第8章

カナダ日系合同教会歴史編纂委員会編 (1961) 『カナダ日系人合同教会史—1892-1959—』、カナダ日系人合同教会全国協議会。

佐藤 伝 (1953) 『加奈陀日本語学校教育会史—1923-42 年—』、加奈陀日本語学校教育会整理委員会。

大陸日報社編 (1909) 『加奈陀同胞発展史』、佐々木敏二編 (1995) 『カナダ移民史資料 第1巻』、不二出版。

大陸日報社 (1931) 『ビーシー州日本人電話帳』、佐々木敏二編 (2000) 『カナダ移民史資料 第6巻』、不二出版。

東城町史編纂委員会編 (1997) 『東城町史 第六巻別巻 (年表)』、東城町、128 頁。

中山訊四郎 (1922) 『加奈陀同胞発展大鑑 附録』、佐々木敏二・権並恒治編 (1995) 『カナダ移民史資料 第2・3巻』、不二出版、佐々木敏二・権並恒治編 (1995) 『カナダ移民史資料 第3巻』、不二出版。

西尾愛治 『カナダ製材労働界の大ボス 門田勘太郎氏一代記—海外で活躍する鳥取県出身者 (その二) —』、非売品、10-41。

林 林太郎 (1974) 『黒潮の涯に』、日貿出版社、116-122、佐々木敏二編 (2000) 『カナダ移民史資料 第11巻』、不二出版、116-123。

Brown, H. A. (1993) *Fishing for a Living*, Harbour Publishing, pp.84-85

Kobayashi, A. (1992) *Issei Life History: An Interactive DataBase on Japanese-Canadian History*, Japanese-Canadian National Museum & Archives Society.

Stagey, D. & Stacey, S. (1994) *Salmonopolis: The Steveston Story*, Harbour Publishing Co.

Yesaki, M. (2003) *Sutebusuton: a Japanese village on the British Columbia coast*, Peninsula Pub, 61.

## 第9章

河原典史① (2014) 「カナダ・ロジャーズ峠における雪崩災害と日本人労働者—忘れられたカナダ日本人移民史—」、吉越昭久編『災害の地理学』、文理閣、193-210。② (2016) 「1910 年の悲劇はいかに報道されたか—カナダ・ロジャーズ峠の雪崩災害と日本人移民社会—」、河原典史・日比嘉高編『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』、クロスカルチャー出版、131-156。③ (2021) 「第二次世界大戦前のバンクーバーに



- における日本人ガーディナーの展開―庭を掃くかな伯耆人―」、立命館文学、672、60-75頁。
- 坂口満宏（2015）「誰が移民を送り出したのか―環太平洋における日本人の国際移動・概観―」、米山 裕・河原典史編『日本人の国際移動と太平洋世界―日系移民の近現代史』、文理閣、72-91。
- 鶴谷 寿（1977）『アメリカ西部開拓と日本人』、日本放送出版協会。
- 花木宏直（2020）「20 世紀前半のカナダ平原諸州における沖縄県出身者の移住過程」、カナダ研究年報 40、1-17。
- Jones, L. D. (.2003) *Tales of the CPR*, Fitzhenry & Whiteside Ltd.
- Woods, G. J. ( 1979) *Snow War: An Illustrated History of Rogers Pass Glacier National Park, BC*, National and Provincial Parks Association of Canada in cooperation with Parks Canada.